

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900685
法人名	株式会社めいとケア
事業所名	グループホームめいと船橋小室
所在地	千葉県船橋市小室町5077
自己評価作成日	令和7年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和7年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で落ち着きと温かみのある施設内で、常に明るく清潔感のある空間を保つよう努めています。グループホームの理念・目的である『暮らしの継続』を中心に、利用者様が自分らしく、健康で安心して過ごしていただけるよう、日々利用者様の思いに寄り添い、笑顔を絶やさないよう職員一同心掛けています。いつまでも自分らしく穏やかな日常生活を送っていただけるよう、質の高いサービスを提供しております。入居者が一堂に会するリビングでは、談笑やテレビ視聴、カラオケ、レクリエーション、食事など、多様な活動を楽しむ場所として利用されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年々利用者の介護度が重くなる中で職員の入れ替わり(ベテランの退職と新人の採用)もあり、この1年間は、職員の育成と利用者の健康管理に注力してきた。職員の育成では、チームを組んで介護にあたった結果、ベテランと新人とのコミュニケーションがスムーズとなり、連係ミスやトラブルが減少した。健康管理ではリズム体操を毎朝行うほか、毎月ボランティアによるダンス、マジック、クイズ等で利用者の心の健康に繋げている。食事支援では副菜に3食ともフリーズ食品を利用している。調理時間が短縮され、その分、職員と利用者との会話が増えた。なお、コロナ感染防止は5類に移行したものの引き続き換気、消毒、マスク着用を行い、家族が安心して訪問できるようにしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	2024年度自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念:株式会社めいとケア						
1	(1)	グループホームめいと船橋小室 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に なげている	事務所・休憩室に理念を掲げ、申し送り終了時に職員間で共有し唱和している。	仕事を進めていく上で必要な「笑顔・挨拶・報告・指示・言葉使い」を心得五訓として、毎日申し送り時に唱和するとともに、実践で心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域との付き合い 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加入して、地域の一員として祭りやイベントに参加し自治会員として認められている。	コロナの落ち着いた見られた昨年7月からは、毎月1回、公民館でのさわやかサロンに参加し交流を深めている。また、市のボランティアセンターからは毎月ボランティアの訪問があり、歌、手品、体操等を通じて利用者のリハビリ向上に役立っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所では、認知症の方への理解を深めるため、運営推進会議時や家族への助言・情報提供を定期的に行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月おきの開催しており、利用者の状況やサービスの課題を報告し、出た意見を基に職員間で改善策を検討・実施しています。	運営推進会議には外部関係者として民生委員3名、地域包括支援センター1名が参加している。民生委員からは、地域の防犯体制、防犯アナウンス等について報告があり、意見交換が行われた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と定期的に情報共有を行い、事業所の状況や課題を伝えることで連携を深め、支援体制の強化に努めています。	市の窓口は生活支援課と指導監査課。様々な機会に電話で相談をしており、協働関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度の割合で、具体的事例を基に研修会を実施している。	ホーム内に適正化委員会を設置している。身体拘束廃止のための研修は計画を立てホーム内で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 官理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などへの積極的な参加を促し、職員に理解していただき防止に努めている。			

自己	外部	項 目	2024年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用している入居者が3名おり常に連絡を取り合い、この制度について理解を深めるべく職員間での話し合いも随時行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項説明書、契約書の説明を行い、不安がないようにし納得及び理解された上での契約となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との連絡は随時行っておりご意見やご要望についてはその都度反映できるようにしている。日常の写真を送ったりもしている。又、市担当職員等へも必要時お伝えしている。	家族の意見は訪問時に聞くようにしている。訪問回数の少ない家族には随時電話をして意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの中でも意見交換をしたり、月に1度のスタッフミーティングを行ったり、連絡ノートの活用も行いその都度運営に必要な事については出来る限り早く反映できるように努めている。	職員の意見は仕事の中で聞いている。例えば利用者の入浴をスムーズに行うため、入浴の順番を決め、それをわかりやすいように表にしたかどうか、との提案が職員からあり実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や年に1度の昇給、勤務時間等については各職員と話し合い少して働きやすいようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティング等短い時間でもスキルアップ出来るよう努めている。月1回の社内研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市のグループホーム連絡会の会員となっており、情報共有を行いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	2024年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学や面談等で不安や心配事などを確認し、入居後には積極的に声掛けし、傾聴とともに安心して共同生活を送ることが出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学や面談等で不安や心配事及び要望を傾聴し信頼関係を築いて安心して入居が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援について話し合いを十分に行い、ご理解頂いた上で適切な支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でできる事ややりたい事等を見極め、残存能力を最大限に活用してやりがいのある生活が出来るよう支援していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の施設での生活状況や問題点などを随時家族へ報告・相談し、コミュニケーションを深めより良い信頼関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの人や場所との関係を保てるよう、外出支援や家族の面会調整に取り組んでいます。	コロナ禍以降、来訪者の数は少ない。今は利用者や職員が馴染みの人となっている。自治会主催の「さわやかサロン」に参加したり、ボランティアが来訪し交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に日中はリビングで過ごして、利用者の性格などを踏まえて席順を工夫し仲良く過ごせる環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	2024年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、連絡、相談を受けられるように務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から本人の希望や思いを聞いて、スタッフ間で話し合い、本人の意向に沿った生活が送れるよう努めている。	入居時に本人の趣味や嗜好、家族の意向を聞いている。うまく話せない利用者とは、日々の生活より、表情や仕草から利用者の思い等を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーと協力しあいながらこれまでの暮らし方や生活状況他、本人と家族から情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況や心身状況について記録を残しスタッフ間で情報共有をして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心にスタッフと情報交換し検討を行い、多様な意見を取り入れたケアプラン作成目指している。	入居時の介護計画に課題が見つかった場合は、個人記録を基に、利用者や家族、かかりつけ医の意見も参考にして、全職員で介護計画の見直しを図っている。	一部家族との連絡が取りづらいケースもあるようであるが、連携方法について検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個別記録で記入し、スタッフ間で情報共有し常に見直しをできるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況や状態等に応じて必要なサービスが行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	2024年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、利用者が地域活動やサービスを活用できるよう調整し、安心して充実した暮らしを支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者と家族の意向を尊重し、かかりつけ医と密に連携することで、適切な医療が受けられるよう月2回の定期往診を行っています。	入居時に、利用者や家族の同意を得て、24時間対応型医療機関に「かかりつけ医」を変更してもらい、医療情報は職員で共有している。看護師の訪問、歯科医師や薬剤師も訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と入居者の情報を共有し、相談を通じて適切な受診や看護が受けられるよう連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員やワーカーと面会や情報収集を行い入退院に向けての情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について、入居前や入居契約時及び必要に応じて当施設での対応を詳細に説明している。	重度化や終末期を迎えた時には、利用者や家族、かかりつけ医等と話し合い、医療行為がなければホームで看取りを行い、看取り後は、担当職員のケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、初期対応や応急手当、AED研修などを行い対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っており、今後地域との協力体制を築けるよう努力する。	業務継続計画(BCP)は作成済みで、地震や水害時はホームで救援を待つことに決定し、厨房や浴室はオール電化で火災を防ぐ対策をしている。民生委員を介して地域の協力体制を構築している。	

自己	外部	項 目	2024年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシーの書面を掲示し、また施設内研修にて個人情報保護について学ぶ機会を作っている。	入浴やトイレ誘導等は、穏やかな口調で利用者の思いに寄り添い支援している。プライバシーを損ねないように、利用者が理解できるよう、トイレの引き戸に「ノックをしましょう。」と表示されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に選択頂くケースをもち、意思や希望を確認して自己決定をしていただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールは決まっており、利用者の意思やペースに沿って、スケジュール通りに過ごすかどうかはご本人に決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問美容を利用しているまた、入居者の好みや季節に合った身だしなみやおしゃれを尊重し、選択や準備をサポートしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や食事、片付けを行うことで、食事の楽しさを支援しています。	副菜は、毎食フリーズ食品を利用している。ホームでは、ご飯と汁物を作り、利用者に合わせて副菜を刻み食やミキサー食に調整している。お水やお茶の飲めない利用者はゼリーで、水分を補給している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別記録に記入している。嚥下状態や体調に合わせ食事形態を刻み食やミキサー食にして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。一部介助及び全介助にて仕上げを行っている。その他口腔用スポンジや口腔用ウェットティッシュを使用し清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項 目	2024年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう、トイレ誘導の声かけを行い排泄の自立を支援している。	リハビリパンツを着用しているが、基本はトイレ排泄で、職員がさりげない言葉かけをし誘導している。夜間はテープおむつやポータブルトイレを利用している。家族の同意を得て転倒防止にセンサーも活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、その日の体調に合わせて適度な運動を習慣化するようこころがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望やタイミングを尊重し、柔軟に入浴時間を調整して、リラックスして入浴を楽しめるよう支援しています。	週2回が基本であるが、夏場や汚染した時にも対応している。入浴時間も利用者の体調や気持ちに寄り添い柔軟に調整している。浴室や脱衣所は整頓され、ヒートショック対策も講じられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度な運動を取り入れ、生活リズムを整え夜間の安眠に繋げている。特に昼夜逆転しないよう注力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が薬の目的や副作用を理解できるよう説明し、服薬のサポートと症状の変化を注意深く確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や好みに合わせた役割や楽しみを提供し、日々の喜びや気分転換を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等により施設周辺や近くの公園などへ散歩を行っている。	日光浴や気分転換を兼ねて、ホーム周辺の短時間コースを散策している。自治会主催の「さわやかサロン」へは徒歩や車で出掛けしている。お花見に出かける計画も立てている。	

自己	外部	項 目	2024年度自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つ重要性を理解し、個々の希望や能力に応じて、安心してお金を所持し使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の音や光、温度などに配慮し、生活感や季節感を取り入れた居心地の良い環境作りを心掛けています。	朝食や昼食後は、利用者の作品が飾られたリビングや居室で寛いでいる。リビングでは10時から体操やリズム運動を行い、14時からレクリエーションを行うなど時間が割り振られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士でリラックスできるエリアを工夫し、居心地の良い空間を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と家族と相談し、使い慣れたものや好みに合わせた居室作りを行い、居心地よく過ごせる環境を提供しています。	居室には、歯磨きや洗顔ができる洗面台(自動水栓)が設置され、乾燥防止の濡れタオル置き場にも活用している。天井まで届くクローゼット内に物入れ等が収納され、車椅子の動線に配慮し、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の「できること」「わかること」を尊重し、安全かつ自立した生活が送れるよう、建物内部の環境を工夫しています。		